

京都教育大学FDニュース

No. 45

2008年12月8日

FD委員：村上登司文、榊原典子、和田尚、泉恵美子

FD研修会（第2回）について

11月のFD研修会に続き、第2回の研修会を下記の日程で開催いたします。

今回も本学の先生方に授業の工夫についてお話しいただきます。授業改善の参考にしていただくために、皆様ふるってご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

記

日時：平成20年1月21日（水）13:20～14:20

場所：大会議室

研修内容：「私の授業の工夫について」

1. 「大人数・講義形式の授業において学生のコミットメントをいかに高めるか」

岡部 美香 先生

2. 「学生の法則・教師の法則

— 幸せな授業のためのささやかな傾向と対策（と苦悩） —

森山 卓郎 先生

第14回FDフォーラムの予告

大学コンソーシアム京都主催

テーマ：「学生が身につけるべき力とは何か？—個性ある学士課程教育の創造—」

1日目：平成21年2月28日（土）13:00～開会挨拶

13:10～シンポジウム

17:15～情報交換会

2日目：平成21年3月1日（日）10:00～15:00 8つの分科会（12:00～13:00は、昼休憩）

会場：龍谷大学深草キャンパス（両日とも）

申し込み方法：大学コンソーシアム京都のホームページからの予定です。申し込み方法が確定次第、ご案内します。

後期の授業アンケートについて

後期授業アンケートは、平成 21 年 1 月 9 日（金）～26 日（月）の実施期間で、履修登録者 6 名以上の全授業で行っていただきます。ご協力どうぞよろしくお願いたします。

FD研修会（第 1 回）を振り返って

去る 11 月 19 日（水）13 時 30 分より平成 20 年度第 1 回の FD 研修会を開催しました。前回に引き続き「私の授業の工夫について」というテーマで二人の先生に講師をお願いしました。伊勢先生（英文学科）からは「最初が肝心」というサブテーマで、坂東先生（理学科）からは「身近な自然から学ぶ「生物学」」というサブテーマでお話いただきました。以下簡単に先生方のお話の内容について報告します。

伊勢先生は授業の構成要素をコンテンツ（何を教えるか）、スキル（どう教えるか）、タレント（いかに魅せるか）として捉え、今回はスキルに関して具体的に話されました。最初の授業と毎回の授業の最初を重視され、最初の授業ではフランス語への関心を高めることと、言葉でコミュニケーションをとることの重要性を説明されるとのことでした。

毎回の授業の最初にはフランスに関するクイズ形式のプリントを出席代わりにし、プリントには“ひとこと”欄をもうけ授業の終わりに書かせる工夫もされていました。その内容については次回の授業でフィードバックし、学生とのコミュニケーション促進を心がけているとのことでした。授業では学生主体の授業形式に重きをおき、学生による発表と質疑応答の時間を大切にされていました。

坂東先生は、生物学を分かりやすく子供達に伝えて欲しいという思いから、身近にある生のものに触れさせることを重視されていました。意識しないと物はみえない、みんな別々で一緒がいい、穴の向こうは知らん顔、育ててみようなど、授業で大切にされている考えを実践との関連で話されました。教室外での授業も取り入れ、学生が知識を体験できる機会も重視されていました。

毎回の授業の初めに鳥や動物などの絵を描かせ、出席代わりに用いられているとのことでした。絵を描くことにより、物に対する見方を再認識させることや、絵を介して学生とのコミュニケーションが豊かになるということでした。

先生方のお話に通ずる内容として、学生とのコミュニケーションを密にする努力がされている点があげられます。それは出席の取り方における工夫や、授業の進め方や内容において何うことができます。先生方の授業に対する熱意に関する学生の評価が高いのも、こうした努力の結果だと改めて感じました。授業の特性や受講者数が異なる授業においても、大変参考になるお話だったと思います。

お忙しい中、有意義なお話をしてくださいました伊勢先生と坂東先生に改めてお礼を申し上げます。今回の参加者は約 40 名でしたが、さらに多くの先生方に参加していただき、実りある研修会にしたいと願っております。今後ともご協力をお願いいたします。